

奨学一時金（国際会議等参加費支援）受給者報告

対面形式の国際学会に参加して

大学院理工学研究科博士前期課程 情報工学専攻 1年(2022年度現在)

齋藤颯太



2022年9月上旬、私はドイツのシュトゥットガルトにて行われた Emerging Technologies and Factory Automation 2022 (ETFA 2022)に参加しました。この学会は産業および工場自動化分野の最新開発や新技術に関する学会です。このような分野における基礎的な

研究として私は自身の研究分野である生物の集団行動から着想を得た群知能アルゴリズムという最適化手法の発表を行いました。

学会への準備が始まったのは3月頃でした。その頃から世界情勢は不安定なままで直前まで不安が付き纏いましたが、そんな雰囲気を感じさせないほど会場には多くの参加者が集い非常に活気に溢れていました。発表自体も厳格な雰囲気を想像していましたが他の発表者が堂々と自由に発表をしている様子が特に印象的でした。発表練習や想定質問への応答を入念に準備していたため自信をもって発表することができ、質問に対して英語で上手く答えられなかった部分もありますが有意義な時間にできたように思います。

自分の発表だけでなく他の発表者の研究内容や成果、プレゼンの様子、質疑に対する受け答えなど様々な面で刺激を受けたと同時に自分の力不足を存分に肌で感じる事が出来ました。私自身今回が2回目の国際学会でしたが完全対面形式での参加は初めてであり、ハイブリット形式で行われた1回目よりも学んだことや達成感、悔しさは多かったように感じます。

短い時間ではありましたが本場のドイツ料理も楽しみ、ビアホールに来ていた老夫婦と共にビールを飲んだ時間は忘れられない思い出になりました。「ヴァイスヴルスト」と呼ばれる白いソーセージが個人的におススメなのでお尋ねの際はぜひ食べてみてください。

今回の国際学会で自分の研究を世界に発信できたことは自分の人生にとって財産となるような貴重な経験となりました。小さな地方からでも世界を見渡し、視野を広げることが出来る環境や機会が茨城大学にはあると思います。私自身、研究者としてまだまだ未熟で力不足ではありますが自分の行っている研究に自信と誇りを持つことが大事な考えだと感じました。今回の経験で学んだことを今後の研究活動に生かし、自分の周りの方々にも貢献していけるように精進していきたいと思っています。最後になりますがこのような機会を設けて下さりサポートしていただいた原口先生に深く感謝申し上げます。



写真 発表会場の様子